【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立唐津東中学校
1　前年度 評価結果の概要	・学力の向上について昨年度は、すべての学年で目標達成とまではいかなかったものの、順調に学力が伸びたと言える。今年度はすべての学年で成果指標を達成するために、さらな る取組を進めていきたい。また、学ぶことの楽しさを伝える授業実践については、教職員のさらなる努力が必要であり、それを学力向上にどうつなげるのかを検討していきたい。 ・心の教育については、道徳教育の大切さを再認識し、「考え議論する道徳」の実践を進めたい。また、いじめについて昨年度は、アンケート結果を受けていじめ対策校内委員会を開催することで、全職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動することができた。今年度も引き続きいじめの未然防止と早期発見に努めていきたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進について今年度は、具体的取組を実践し、協力して問題を解決していこうという雰囲気を作っていくことで、職員の業務への前向きな姿勢を高めていくことが必要と考える。
2　学校教育目標	校訓「光　力　望」のもと、「自主自律」の精神を培い、知徳体の調和のとれた生徒を育成する。 地域や国際社会の発展に貢献する高い知性と志を備えた心身ともに逞しい生徒を育成する。
3　本年度の重点目標	①生徒一人ひとりの進路希望の実現 ②わかる授業実践と授業改善への取組 ③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実 ④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成

4　重点取組内容・成果指標　／　**中間評価**　／　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・評価シートに関する職員向け説明会を行い、マイプランへの理解を深める。 ・生徒一人ひとりの進路希望実現を目指したマイプランを作成する。 ・3学期にマイプランの達成度を検証し、次年度への課題の洗い出しを行う。	B	・生徒の進路希望実現のために学校全体で取り組む目標と、各職員が個人で取り組む課題を明確にしている。 ・生徒の状況に合わせたマイプランの作成を行っている。	B	・生徒の状況に合わせ、各職員が適切な指導をするように心がけている。成果を見ることは難しいが、3年生で複数名が東大模試を受験するなど意欲的に取り組む姿が見られた。 ・学力推移調査では全体の成果は芳しくなかったが、個々の指導は一定の効果を上げており、3年間の見通しを持った指導法を確立していきたい。	B	・マイプランの充実を図り、生徒個々の状況にあわせた適切な指導を期待したい。 ・中学三年間だけでなく、その先へつなげる指導で学力推推移調査の成果を上げてほしい。 ・中高一貫校ですので、じっくり時間をかけて学生達を観察し、指導されることを期待します。	・進路指導
	○学力の向上	○全国模試の学力推移調査において、benesseの指標A１以上の生徒を38名以上にする。 ○「家庭学習は十分にできている」について肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・わかる授業の実践に取り組み、効果的で適切な課題に取り組ませる。 ・質の高い家庭学習を確保するために、手帳やclassiを使い、計画的に学習に取り組ませる。 ・学力分析会（年3回）を実施し、結果の共有と課題の洗い出しを行う。	B	・第1回学力分析会を行い、各教科に共通する課題と学年ごとの傾向を全職員で共有した。 ・夏季休業中のスキルアップセミナーでは、生徒の学力と希望に合わせた講座の開設を計画している。	B	・第3回学力推移調査のA1以上の生徒は、1年生が9名、2年生が16名、3年生が23名と目標に届いていないが、3年生のS層が増加しており、指導方法などを共有し来年度につなげていきたい。 ・家庭学習は十分にできている生徒は57%であり、今後、各教科間で授業の取り組みや課題の出し方を検討していきたい。	B	・生徒個々に対し理解度の分析を行い、指導につなげていただきたい。 ・家庭学習時間の増加に向けては、家庭とも情報を共有し改善していくべきだと思います。 ・唐津東中学校に入学したことだけで、生徒・保護者が安心することがなく、努力を重ねていく指導をお願いしたい。	・進路指導
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎「道徳科の授業の内容を通して、社会性を身につけ、自らを律し、相手を思いやる心を充実させたか」という振り返りで肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・職員室の道徳コーナーを活用し、各学年で教材や参考資料の共有を行い、学校全体で「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組む。	B	・「道徳の授業が好きだ」と話す生徒が学年が上がるごとに増えている。。 ・昨年度職員室に設けた道徳コーナーの活用が今年度は本格化し授業の創意工夫に大いに役立っている。	A	・SNS上での友人間トラブル、自転車も乗り方などに関する外部の方からの苦情が全くないわけではないが、それでも最小限に抑えられていることに道徳の授業が大きく貢献しているのではないかという声が職員から上がっている。道徳アンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は90%以上であった。	A	・数値目標も達成され、指導の成果が出ていると思われる。学校を外部から見ていても大きな違和感を感じることはありません。 ・若いときに多くの感動を体験させられるような機会を増やせればと思う。	・総務（道徳担当）
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等についての取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員を90%以上にする。	・いじめに関する職員研修を実施する。 ・「生徒理解協議会」で生徒の様子などの情報を共有し、「いじめ未然防止の取組」「いじめ早期発見の取組」に努める。	B	・いじめに関する職員研修は夏休みに中高合同で実施予定。 ・「生徒理解協議会」で生徒の様子などの情報を密に共有することができた。日ごろから情報交換に努め、「いじめの早期発見」の取組を行えた。	B	・いじめに関する職員研修は夏休みに中高合同で実施し、イジメの定義などを共有できた。いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等についての取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員は90%以上であった。 ・「生徒理解協議会」のみならず日頃より生徒の様子などの情報を密に共有することができた。来年度も、会議だけではなく、日頃より生徒の様子などの情報共有を図りたい。	A	・いじめとされる事案を覚知の段階から素早く対応されていると思う。生徒達もそうですが、保護者の方々にもいじめの覚知とは、認知とは、といったところをもっと理解してもらうことが必要な気がします。 ・先生方には日頃の生徒の見守りをお願いするとともに、保護者には家庭での様子の観察も怠らないようお願いしたい。 ・話しやすい環境作づくりをお願いしたい。	・生徒指導
	◎グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成	◎「グローバルに活躍したいか、物事に積極的に挑戦したいか」について肯定的な回答をした生徒80%以上にする。	・海外の中学生との交流会、英会話体験プログラム等を企画・運営する。	B	・新型コロナウイルスの影響で海外研修などの具体的案内を十分に行うことができてはいないが、英語の授業等を通し、年度末のエンパワーメントプログラム(グローバルマインドの醸成等)に向けての活動を行えた。	B	・1年生において校外学習、2年生において英会話体験プログラム、3年生において修学旅行を滞りなく実施できた。その結果90%以上の生徒がグローバルな視点を見つけ挑戦したいと答えている。来年度は、数年前までのように海外研修などの再開を模索しながらより充実した案内を提供できればと考える。	B	・グローバルに活躍するためには海外のことを理解しようとする前に日本のことをよくわかっていないといけない。更にはグローバル教育により、世界の歴史・伝統・文化等に興味を持ち、世界に貢献できる人材となる。 ・コロナ対策緩和で色々なチャレンジが可能になることに期待したい。	・総務
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒を90%以上にする。（R3年度末85%）	・「ほけんだより」等をとおして、食育に関する情報を提供する。 ・家庭科との連携、ミルク給食やフッ化物洗口等の円滑かつ適切な運営を行う。	B	・「ほけんだより」では、体力づくりや熱中症などその時期に応じた内容で、生徒が簡単に取り組むことができることを具体的に情報提供できるよう留意した。また、食育につながる内容としては、「適切な補食」について取り上げた。	A	・「ほけんだより」では朝食の大切さや、冷えにはタンパク質の摂取が効果的など、できるだけ具体的な食育に関する情報を掲載するよう心がけた。また、生徒のほとんどが毎日弁当を持参していることから、食に対する意識が高い家庭が多いと推察される。アンケートにおいては、93%以上の生徒が「健康に食事は大切である」と回答した。	A	・家庭の理解もあり、食の大切さも理解できているようだが、自分で作る機会を増やすことも大切と思います。 ・ 基本的な栄養学を教えることにより、食の大切さを理解する。ユネスコ世界文化遺産になった「和食」を誇りに思い、知ることも有効だと思われる。	・保健厚生
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外在校時間の上限を周知し、各個人の実情に応じ、削減の工夫を呼びかける。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定し、有効利用を呼びかける。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。休日に活動する場合も、顧問間での分担を調整し、時間外勤務の縮減に努めてもらう。	B	・時間外在校時間の上限は、日報で全職員に周知している。 ・時間外勤務の多い職員には適宜声かけをし、振休取得や働き方改善を促している。 ・毎週月曜日を定時退勤日に設定し、夏季休業中の学校閉庁日は11日間設定した。 ・週1日以上、月8日以上の部活動休養日は全ての部で実施できている。また県下一斉部活動休養日である第3日曜日は、毎月休養日とすることができている。時間外勤務の縮減については、4・5月ではR3年度平均43:09、R4年度は41:49と約3.5%減となっている。	B	・時間外在校時間(2月末)の職員平均35時間11分と昨年度の平均35時間03分とほぼ同程度となっているが、教育委員会規則にある上限について、年360時間の上限については昨年度6名(28%)に対し、今年度8名（38%)の職員が上限を守れている。 ・時間外勤務の多い職員には適宜声かけを行った結果、年度の後半からは職員全体の平均月別時間外勤務時間が昨年度を下回るようになった。 ・週1日以上、月8日以上の部活動休養日は全ての部で実施できている。また県下一斉部活動休養日として設定された第3日曜日は、毎月休養日とすることができている。	B	・時間超過の多くが部活動とのこと。ここは地域の課題でもあると思われます。例えば全ての運動部が基礎練習の日として同じ練習メニューにする日を作り、その日管理する先生を交代制にすることで、顧問の先生の負担を減らせるのではないでしょうか。 ・無理のない程度で業務を見直す必要があると思う。 ・ICTの時代に適応し、デジタル化・オンライン化の推進を勧めてほしい。アンケートの実施や意見の収集など。	・管理職
	○労働環境の改善	○「作業管理や作業環境等労働環境が改善された」と回答した教職員を75%以上にする。	・「職場環境に関するアンケート」の実施 ・ハラスメント相談体制の周知 ・衛生委員会の充実	B	・ハラスメントの相談体制は周知済み。相談は現在のところあっていない。 ・衛生委員会にて、時間外勤務や職員の健康管理、職場環境改善を進めている。	B	・ハラスメントの相談体制は周知済み。相談は現在のところあっていない。 ・「職場環境に関するアンケート」で改善されたと回答した職員は20%であったが、そうは思わないとの回答も27%であり、結果を受け改善を進めている。	B	・人相手の職業の難しさを感じます。時間ばかりではないことも多々あることかと思います。先生方には感謝の念しかありません。 ・働きやすい環境により、生徒への指導もゆとりをもってあたることができると思います。	・管理職

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力向上については、学力推移調査の結果からはどの学年も3教科の成績向上が揃わず、苦戦している。そんな中全体的には3年生が学校間比較で健闘し結果を残している。次年度へ向けては、計画の段階から効果的方策を模索し、取組を確実に実行に移し、結果に結びつけたい。 ・心の教育については、社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育を目指し取り組んできた結果を残せたと思う。いじめの早期発見、早期対応を概ね実行できたが一部人間関係の複雑さなどから対応が難しかった。グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成に取り組んだが、コロナ禍ということで行事等の実施が十分に行えず、生徒達の意識の変化や行動の実行につなげることに苦労した。次年度はここ3年見送ってきた行事等を復活させるなど、積極的に目標達成に取り組みたい。 ・健康・体つくりについては、「ほけんだより」を中心に定期・不定期にタイムリーな呼びかけ、注意喚起を行えた。次年度も継続していきたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、なかなか効果的対策が行えず時間外在校時間の縮減には至らなかった。次年度は行事の精選、業務量の削減等を実行し、時間外在校時間の縮減につなげなければならない。労働環境の改善についても、継続していきたい。